

VLOGCAM ZV-E10の魅力

POINT 1

高感度撮影性能が
高く暗所でも高画質

静止画撮影時のISO感度は100-32000の幅広い感度領域。星空や夜景などの暗い場所でも高画質の描写が可能。

モード▶マニュアル
絞り▶F1.4
シャッター▶10秒
ISO▶1000
露出補正▶0
ホワイトバランス▶オート
レンズ▶E 15mm F1.4 G
焦点距離▶15mm
その他▶Kenko スターリーナイト ブロンプトン使用



POINT 2

静止画・動画ともに
人物や動物の瞳を
捉え続けるリアルタイム瞳AF

自動的に人物や動物の瞳を検出してピントを合わせ続けることが可能。

モード▶シャッタースピード優先
絞り▶F6.3 シャッター▶1/1000秒
ISO▶640 (ISO AUTO) 露出補正▶0
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E 55-210mm F4.5-6.3 OSS
焦点距離▶210mm



POINT 3 エフェクト機能で自由自在な表現に

自分好みの色彩やイメージに表現できるクリエイティブスタイルや、ピクチャーエフェクトを選ぶだけで、印象的な画像を残せる。

モード▶絞り優先
絞り▶F8.0
シャッター▶1/2000秒
ISO▶100
露出補正▶-0.3
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離▶16mm
その他▶クリエイティブスタイル (風景:コントラスト+2 彩度+2 シャープネス+1)



モード▶絞り優先
絞り▶F3.5
シャッター▶1/30秒
ISO▶320
露出補正▶+0.3
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離▶16mm
その他▶クリエイティブスタイル (白黒)

モード▶絞り優先
絞り▶F5.6
シャッター▶1/400秒
ISO▶100
露出補正▶0
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E PZ 55-210mm F4.5-6.3 OSS
焦点距離▶114mm
その他▶ピクチャーエフェクト (パートカラー・イエロー)



Section

01

ZV-E10の各部名称を確認しよう

Keyword 各部名称

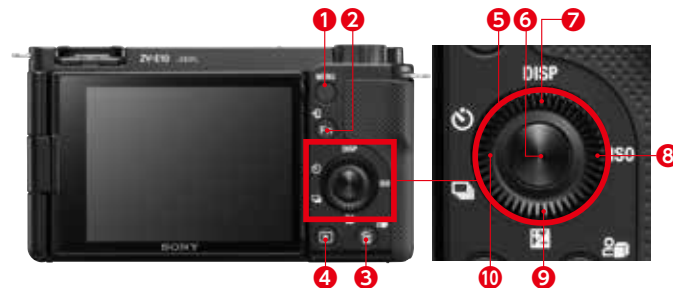
豊富な撮影機能が搭載されたZV-E10。このカメラを使いこなすには、基本的なボタンやダイヤルの位置を事前に理解しておきたい。撮影自由度を高めてくれる操作性を実感するためにも、まずは撮影しながらいろいろと操作すると、各機能への理解を深めることができる。

1 正面部の主な名称



1 シャッターボタン	2 マウント標点
2 ウィンドスクリーン (付属品)	8 モニター/タッチパネル
3 レンズ	9 レンズ信号接点
4 セルフタイマーランプ/録画ランプ	10 イメージセンサー
5 撮影時: W/T (ズーム) レバー 再生時: [Z] (一覧表示)レバー/再生ズームレバー	11 レンズ取りはずしボタン
6 マウント	

2 背面部の主な名称



1 MENU ボタン
2 撮影時: Fn (ファンクション) ボタン 再生時: [S] (スマートフォン) 転送ボタン
3 [X] (削除) ボタン / [P] (商品レビュー用設定) ボタン
4 [R] (再生) ボタン
5 コントロールホイール
6 中央ボタン
7 [DISP] / 画面表示切替 (DISP)
8 [ISO] / ISO 感度 (ISO)
9 [Z] / 露出補正 ([Z])
10 [DRIVE] / ドライブモード ([DRIVE] / [DRIVE])

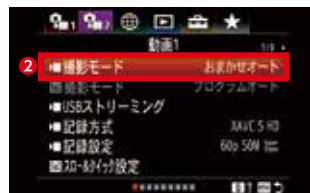
3 上面部、側面部の主な名称



1 [L] イメージセンサー位置表示	9 静止画/動画/S&Q 切替ボタン
2 マルチインターフェースシュー	10 Wi-Fi/Bluetooth アンテナ (内蔵)
3 内蔵マイク	11 [MIC] (マイク) 端子
4 ON/OFF (電源) スイッチ	12 USB Type-C 端子
5 MOVIE (動画) ボタン	13 充電ランプ
6 C1 ボタン (カスタムボタン 1) / [C1] (背景のボケ切替) ボタン	14 HDMI マイクロ端子
7 ショルダーストラップ取り付け部	15 [HEADPHONE] (ヘッドホン) 端子
8 コントロールダイヤル	

4 動画撮影でオートモードに設定する

動画撮影でも同様にオートモードがあり、シーンを認識して動画を撮影する「おまかせオート」が設定できる。「おまかせオート」に設定してカメラを向けるだけで、撮影シーンに適した設定にしてくれるのでかんたんにきれいな動画が撮影できる。



カメラのS&Q切替ボタンを押して、動画モードにする①。MENUボタンを押して、1の「撮影モード」を選択し②、中央ボタンを押す。

▲/▼で「おまかせオート」を選択し③、中央ボタンを押す。

5 動画を撮影する

動画の撮影は、MOVIE (動画) ボタンを押すだけでかんたんにはじめられる。撮影モードを「おまかせオート」にしてまずは撮影を楽しもう。



MOVIE (動画) ボタン①を押すと撮影が開始される。

撮影を停止するときは、もう一度MOVIE (動画) ボタンを押す。

■ 動画撮影時のポイント

撮影シーンを認識すると、アイコンが表示される。



動画の撮影中はモニター上に赤い枠が表示され、STBYの表示がRECに変わる。

被写体を認識するとピント合わせが行われる。ピント合わせが遅い場合は、シャッターボタンの半押しでピント合わせすることも可能だ。



撮影中もFnボタンを押すとフォーカスエリアやフォーカスモードを変更することもできる。ただし、ボタンを押す音も録音されてしまうおそれがあるため、事前に設定を確認しておいた方が無難だ。

ONE POINT 静止画撮影待機中に動画を撮りはじめることもできる

静止画撮影中でも、急に動画を録画したいと思ったらMOVIE (動画) ボタンを押すと、「おまかせオート」の撮影モードで録画をすることができる。細かい設定を変更するのであれば、静止画/動画/S&Q切替ボタンを押して動画の事前準備をした方がよいが、とっさに動画を撮影したい場合は、MOVIE (動画) ボタンを活用しよう。



静止画撮影モードにしている場合、MOVIE (動画) ボタンを押せば動画撮影ができる。

まとめ

- 静止画のオートモードには「おまかせオート」と「プレミアムおまかせオート」の2種類がある
- 動画のオートモードは「おまかせオート」がある
- 静止画撮影待機中でもMOVIE (動画) ボタンを押すと、動画を撮影することができる

Section

05

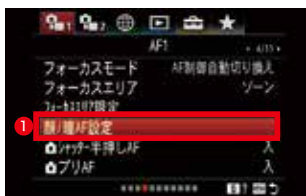
リアルタイム瞳AFを
活用しよう

Keyword 顔/瞳AF設定

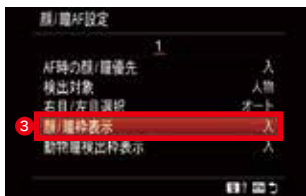
AI (人工知能) を活用した新技術「リアルタイム瞳AF」は、人物や動物の撮影ではとても頼りになる機能だ。リアルタイムに被写体の人物の瞳を検出して追従するだけでなく、**動物の瞳**にも対応可能になった。

1 顔/瞳AF設定を使ってみよう

顔/瞳AFとは、AFのときにフォーカスエリア内にある**顔や瞳を検出してピントを合わせる機能**のこと。[入] に設定して、ポートレートや家族写真を撮るときに活用してみよう。



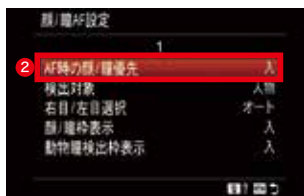
MENUボタンを押し、 4の[顔/瞳AF設定]を選択し①、中央ボタンを押す。



4の[顔/瞳AF設定]を選択し、[顔検出枠表示]を選び③、中央ボタンを押す。



両目を捉える角度になると、自動的に瞳にピントが合う。左右どちらの目にピントを合わせるかを設定せずにオートにしていると、カメラに近い方の目にピントが合う。



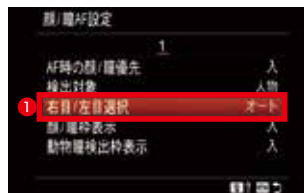
▲/▼で[AF時の顔/瞳優先]を選択し②、[入]を選び、中央ボタンを押す。



▲/▼で[入]を選択し④、中央ボタンを押す。

2 ピントを合わせたい瞳を設定する

フォーカスモードが3種のAF時なら(→P.38)、瞳を合わせてシャッターボタンを半押しするだけで、被写体の瞳にピントを合わせてくれる。フォーカスエリアが広い方が瞳を認識する範囲も広がるので、**ワイドやゾーンで撮影する**のがおすすめだ。撮りたい顔を優先的に認識するよう登録したり、左右の目のどちらかにピントを合わせる設定にしたりすることもできる。



4の[顔/瞳AF設定]を選択し、[右目/左目選択]を選び①、中央ボタンを押す。



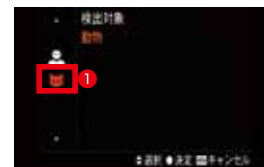
焦点を合わせたい好みの瞳を選択し②、中央ボタンを押す。



ZV-E10の測距点は425点と多く、広い範囲をカバーしている。被写体が画面の端にいてもしっかりと瞳を認識し、ピントを合わせてくれる。自由な構図で撮影することができる。

ONE POINT リアルタイム瞳AFは動物の瞳にも対応

ハイレベルな物体認識技術を用いて瞳を捉えるリアルタイム瞳AFでは、人物だけでなく動物の瞳も検出することができる。これにより、これまでフォーカス枠をピンポイントで合わせることが難しかった、犬や猫などの動物の撮影が格段に撮影しやすくなった。MENUボタンを押し、 4の[顔/瞳AF設定]から、[検出対象]を[動物]にすると①、より動物の瞳を捉えやすくなる。



まとめ

- 被写体の瞳にピントを合わせてくれる
- 人物だけでなく動物の瞳にもピントを合わせられる

2

ピント合わせを理解して撮影しよう

ZV-E10の 撮影モードを知ろう

Keyword おまかせオート、P、A、S、M、撮影設定呼び出し、スイングパノラマ、シーンセレクション

ZV-E10の撮影モードは、カメラまかせにできるおまかせオートに、撮影者が機能や設定を変更できるP、A、S、M、BULBモード、パノラマ写真が撮れるスイングパノラマ、撮影シーンを設定するとそれに適した撮影設定にしてくれるシーンセレクションがある。

1 撮影モードを切り換える

ZV-E10の撮影モードはMENUボタンから設定する。頻繁に撮影モードを切り換える場合には、[カスタムキー] (→P.120) で任意のボタンに [撮影モード] を割り当てておくと、ボタンを押すだけで撮影モードの設定画面が開くので便利だ。

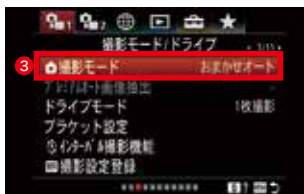
■撮影モードの設定方法



静止画/動画/S&Q切換ボタンを押す①。



静止画、動画、S&Qのどれかを開く。ここでは静止画に設定した②。



MENUボタンを押し、3 [撮影モード] ③を選択する。



希望の撮影モードを選択して④、中央ボタンを押す。

2 各撮影モードの特徴

静止画ではすべての撮影モードが選べるが、動画、S&Qでは一部のモードが使用できない。

おまかせオート	カメラが自動的に撮影状況を判断し、適切な露出に設定する。S&Qでは使用できない。静止画では、[おまかせオート] と [プレミアムおまかせオート] の2種類から選ぶことができる。
プログラムオート	シャッタースピードと絞り値をカメラが自動で設定する。ISO感度や露出補正など、ほかの設定は自分で調整する。露出をカメラまかせにできるので、シャッターチャンスを見逃したくないときに有効な撮影モード。
絞り優先	絞り値を撮影者が設定し、シャッタースピードをカメラが自動で設定する。ボケ感のコントロールをしたいときに有効な撮影モード。
シャッタースピード優先	シャッタースピードを撮影者が設定し、絞り値をカメラが自動で設定する。躍動感を活かした撮影をしたいときに有効な撮影モード。
マニュアル露出	絞り値とシャッタースピードを撮影者が設定する。すべてを自分で設定するため、撮影に慣れている上級者向けの撮影モード。
撮影設定呼び出し	あらかじめよく使う撮影モードや設定を登録しておく、呼び出して撮影できる。
スイングパノラマ	カメラを左右、または上下に動かしてパノラマサイズの画像を撮影する。動画、S&Qでは使用できない。
シーンセレクション	ポートレート、スポーツ、マクロなど、撮りたい被写体や撮影シーンを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。動画、S&Qでは使用できない。

まとめ

- 動画ではスイングパノラマとシーンセレクションは設定できない
- S&Qではおまかせオート、スイングパノラマ、シーンセレクションが設定できない

Section

03

滑らかなズームや
ピント操作を知ろう

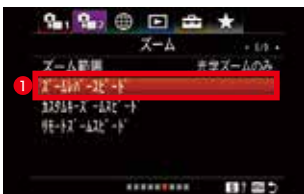
Keyword

ズームスピード、MF、ピーキング

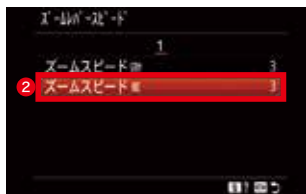
雰囲気の良い動画を撮る際に気になるのがズームのスピードだ。ゆっくりと被写体にズームしていくと、見ている人の視線も被写体に誘導される。動きを追うことよりも雰囲気を重視するのであればズームのスピードを調整しよう。また、フォーカスモードをMFに設定すればピント合わせのスピードも自由に調整できる。大きくボカしたところからゆっくりピントを合わせるのも効果的な表現の1つだ。

1 ズームレバースピードを設定する

[ズームレバースピード] では動画撮影中のカメラのW/T (ズーム) レバーでのズームスピードを設定することができる。初期設定は3だが、遅くするとさらに滑らかなズームにすることができる。動きを追う際は逆に速くするとよいが、ズームする際のモーターの音が大きくなり、動画に記録されてしまうこともあるので注意が必要だ。



MENUボタンを押し、 6の [ズームレバースピード] を選択し①、中央ボタンを押す。



[ズームスピード REC] を選択し②、中央ボタンを押す。



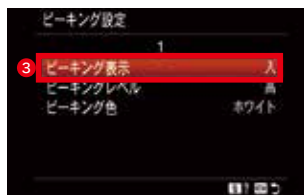
任意のスピードを選択する③。数字が小さいほどゆっくりズームし、大きいほど速くズームする。

2 MFでピントを合わせる

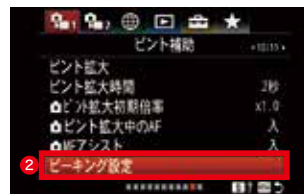
手でピントを合わせるにはフォーカスモードをMFにする必要がある。静止画撮影時はMFアシスト (→P.41) でピントを合わせる際に拡大する機能があったが、動画撮影時はフォーカスリングを動かしても拡大されない。動画撮影時にMFに設定する場合は、ピーキング設定をしておくピント合わせの指標となる。



MENUボタンを押し、 4の [フォーカスモード] で [MF] を選択し①、中央ボタンを押す。



[ピーキング表示] で [入] ③を選択する。[ピーキングレベル] でピントが合った部分の輪郭を強調するレベルを、[ピーキング色] で輪郭を強調する色を選択することもできる。



MENUボタンを押し、 10の [ピーキング設定] を選択し②、中央ボタンを押す。



フォーカスリングを動かすと、ピントが合った部分はピーキングで強調表示されるようになった。

ONE POINT ボタン1つでAFとMFを切り換える

P120で紹介したカスタムキーを使用すると、ボタン1つでAFとMFを切り換えられるようになる。 8の [■ カスタムキー] を選択し、任意のボタンに [再押しAF/MFコントロール] を設定すると、ボタンを押すたびにAFとMFを切り換えられるようになる。

まとめ

- 滑らかにズームするにはズームスピードを調整する
- 動画撮影でMFに設定した際はピーキングを利用してピント合わせの指標にするとうい

Section

05

商品レビュー用設定で
ピントを瞬時に切り換えよう

Keyword

商品レビュー用設定

自撮りしながら商品を紹介する動画撮影のときに、オートフォーカスで簡単にピント合わせができる機能が「商品レビュー用設定」だ。カメラが画面の中に商品（モノ）があると判断すると、顔から商品へピント位置が移動する。顔から商品へ、商品から顔へと滑らかな動きの動画撮影が楽しめる。

1 商品レビュー用設定をする

商品レビュー用設定とは、動画内で商品などを紹介する際にカメラの前に商品を差し出すとそちらに自動でピントを切り換えてくれる機能だ。従来のカメラではカメラがピントを合わせやすいように商品に手をかざして撮影していたが、ZV-E10では商品レビュー用設定をするだけでスムーズに商品にピントが合うようになる。



MENUボタンを押し、 11の「商品レビュー用設定」を選択し①、中央ボタンを押す。



カメラを三脚などで固定し、モニターを撮影者側に向けた③。



[入]を選択し、中央ボタンで決定する②。



W/T(ズーム)レバーで撮影範囲を設定し④、MOVIEボタンを押して⑤撮影を開始する。

2 商品にピントを合わせる

人物にピントが合った状態で撮影を開始する。手に取った商品をカメラの前に差し出すとピントは自動で商品に合い、商品がなくなると再び人物にピントが戻る。動画録画中に「商品レビュー用設定」の切り換えはできないので、あらかじめ撮影シーンに合わせてON/OFFをしよう。



目にピントが合っている状態から、カメラに商品を向けると、ピントが商品に合った。

動画 DATA

モード▶絞り優先 絞り▶F1.8 シャッター▶1/60秒
ISO▶400 (ISO AUTO) 露出補正▶+0.3
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E 35mm F1.8 OSS 焦点距離▶35mm



Section 10 カスタムキーを活用して操作性を高めよう

Keyword カスタムキー、カスタムボタン

機能を変更できるボタンを「カスタムキー」と呼ぶ。C1ボタン、C2ボタンなど、ZV-E10はカスタマイズの自由度が高く、本体のさまざまなボタンがカスタムキーになっている。カスタムキーは、静止画、動画、再生時それぞれに設定することができる。使いやすいようにカスタマイズしてみよう。

1 カスタムキーを設定する

本体のカスタムキーは全部で7つあり、自由に機能を割り当てることができる。機能名に聞き慣れない言葉があるかもしれないが、削除ボタンを押して機能を確かめよう。



MENUボタンを押し、8の[カスタムキー]を選択し①、中央ボタンを押す。

▲/▼/◀/▶で変更したいボタンを選択し②、中央ボタンを押す。



▲/▼で割り当てたい機能を選択し③、中央ボタンを押す。

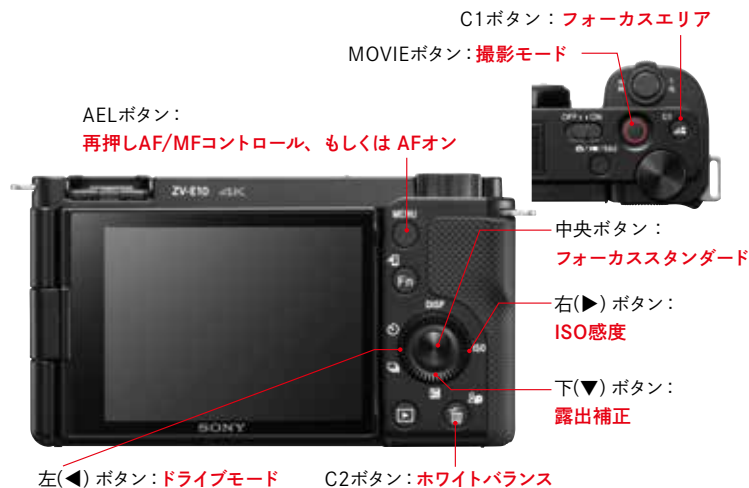
再生時の機能を割り当てたいときは、8の[カスタムキー]を選択する④。

■初期設定



■静止画撮影のおすすめ

静止画撮影時に変更する可能性の高い機能を中心に設定。コントロールホイール(上、右、下、左)は変更の多い機能なので、初期設定のまま使用。その他のボタンにワンタッチで呼び出したい設定を設定するとよい。



超広角ズームレンズを
使ってみよう

標準レンズの広角側16mmよりさらに広い範囲が写せる、10mmまでをカバーしたズームレンズ。全ズーム域で開放絞り値が4.0で使用できるうえ、小型軽量を実現しながら、Gレンズの描写性能やAF性能に加えてパワーズームも搭載していて、写真撮影だけでなく動画撮影に求められる優れた操作性を備えている。



E PZ 10-20mm F4 G

焦点距離 (35mm 判換算) : 10-20mm (15-30mm 相当)
開放絞り : 4
レンズ構成枚数 : 8群 11枚
フィルター径 : φ 62mm
最短撮影距離 : 0.20m (AF時)
希望小売価格 : オープン価格



大銀杏の樹洞を下からあおって撮影した。樹洞をできるだけ大きめに描写することで、広角特有の遠近感で幹の広がりや立体感が強調される。こもれ日の光芒をクリアに写すために絞り値をF11まで絞り、手ブレをしないようにマニュアルでシャッタースピードの調整をした。

モード ▶ マニュアル
絞り ▶ F11
シャッター ▶ 1/100 秒
ISO ▶ 500 (ISO AUTO)
露出補正 ▶ -0.3
ホワイトバランス ▶ オート
レンズ ▶ E PZ 10-20mm F4 G
焦点距離 ▶ 12mm

画像 DATA

1 海岸と雲のある広々した風景を撮る

洗濯岩がちな海岸と薄い雲で模様になった空をダイナミックに撮影した。足元の岩場から遠くの雲までの遠近感が強調されて、立体的な描写により臨場感のある写真が撮れた。開放絞りのF4でもシャープに写るが、絞り値を少し大きくすることで、最高にシャープでクリアな描写で写すことができる。



モード ▶ 絞り優先 絞り ▶ F8.0
シャッター ▶ 1/500 秒
ISO ▶ 100 (ISO AUTO)
露出補正 ▶ -0.7
ホワイトバランス ▶ 太陽光
レンズ ▶ E PZ 10-20mm F4 G
焦点距離 ▶ 10mm

画像 DATA

2 超広角レンズでダイナミックな映像を撮る

岩礁に打ち寄せる波をローアングルで撮影した。このレンズには手ブレ補正機能はついていないが、動画撮影時はアクティブモードで手ブレ補正が可能だ。ただし、焦点距離が約1.44倍になり、画角が狭くなる。せっかくのワイド感がなくなってしまうので、三脚を使ってカメラを固定し、手ブレ補正はOFFにした。



モード ▶ シャッタースピード優先
絞り ▶ F8.0
シャッター ▶ 1/60 秒
ISO ▶ 100 (ISO AUTO)
露出補正 ▶ 0
ホワイトバランス ▶ オート
レンズ ▶ E PZ 10-20mm F4 G
焦点距離 ▶ 10mm
その他 ▶ ND8 フィルター使用

画像 DATA

まとめ

- 肉眼では見えないダイナミックな広がりのある写真が撮れる
- 全ズーム域で開放絞り値が使用できる
- 手ブレ補正機能が付いていないのでブレに注意する

インターバル撮影を活用して タイムラプス動画をつくらう

Keyword

インターバル撮影、Imaging Edge Desktop

タイムラプス動画とは、設定した時間ごとに撮影した連続写真をつなげた動画のことだ。Imaging Edge Desktopを使えば、インターバル撮影(→P.116)した静止画をつなげてタイムラプス動画を作成することができる。夕暮れの空の変化や、人の流れなどを連続撮影してタイムラプス動画にすると、早送りのような動画にすることができる。

1 タイムラプス動画を作成するには

ZV-E10にはインターバル撮影機能が搭載されており、一定間隔で連続した写真を撮ることができる。ただしカメラだけでは、それをつなげて動画にすることはできない。インターバル撮影した静止画をつなぐには、パソコン用ソフトのImaging Edge Desktopをインストールする必要がある。RAWデータの現像にも使用できるので、本格的に写真や動画を楽しみたいのであればインストールしておくといよい。

■ インターバル撮影



まずは、ZV-E10でインターバル撮影する。夕景や夜景、星空や人や車が行き交う道路など時間の経過を感じさせる写真を撮ろう。普通の撮影と違って、撮影時間や撮影回数が多くなるので、バッテリーの残量やメモリーカードの空き容量には注意が必要だ。

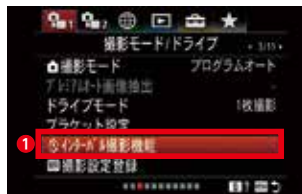
■ Imaging Edge Desktop



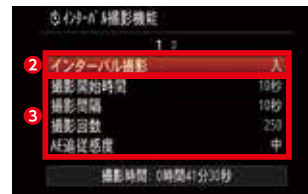
ソニーのサイトから無料でダウンロードできるパソコン用のソフトウェアの1つ。インターバル撮影からタイムラプス動画を作成できるだけでなく、RAW画像を調整して写真を仕上げたり、リモート撮影をしたりすることができる。

2 インターバル撮影をする

インターバル撮影では、撮影間隔、撮影回数、シャッタースピードなどを、被写体、撮影シーンに合わせて設定する。夕景タイムラプスなど緩やかに変化する被写体では、撮影間隔が遅い8～10秒程度がおすすめ。車が行き交う様子のタイムラプスなどでは、撮影間隔・シャッタースピードを速く設定するのがおすすめだ。タイムラプス動画にRAWは使用できないので、ファイル形式はJPEGに変更しておこう。



MENUボタンを押し、3の[インターバル撮影機能]を選択する①。



[インターバル撮影]を[入]にする②。被写体や撮影シーンに合わせて設定を変更していく③。

インターバル撮影	インターバル撮影を行うかどうかを設定する([入] / [切])。
撮影開始時間	シャッターボタンを押してからインターバル撮影を開始するまでの時間を設定する(1秒～99分59秒)。
撮影間隔	インターバル撮影の撮影間隔(露光開始から次の撮影の露光開始までの時間)を設定する。(1秒～60秒)。
撮影回数	インターバル撮影の撮影回数を設定する(1回～9999回)。
AE追従感度	インターバル撮影中の明るさの変化に対する自動露出の追従感度を設定する。[低]に設定すると、インターバル撮影中の露出の変化が滑らかになる([高] / [中] / [低])。
インターバル時サイレント撮影	インターバル撮影中にサイレント撮影を行うかどうかを設定する([入] / [切])。
撮影間隔優先	露出モードが[プログラムオート]または[絞り優先]のときに、シャッタースピードが[撮影間隔]で設定した時間より長くなる場合に撮影間隔を優先するかどうかを設定する([入] / [切])。